

！ 鷲・鷹の本物の羽根そっくりな『矢羽根』づくり

ワシントン条約以降、国内外規制が強まり羽根の入手が困難になり『転写捺染』方法を開発し、天然鷲や鷹柄、本物そっくりに製造。創業明治3年より伝わる技術を伝承しつつ時代に合わせた多彩な色、デザインの矢羽根を製造している。

本業の動向について

和弓の矢・周辺具の製造・卸売業を主要業とする。
売上げも弓道人口も横ばいである。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

あいち産業科学技術総合センター
三河繊維技術センター

(旧名称)

愛知県産業技術研究所
三河繊維技術センター

所在地

愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 109

連携内容

転写プリント(転写捺染法)で羽根に鮮やかな色、柄をつける。

連携した動機やきっかけ

綿、絹など、鳥(七面鳥)の羽根、自然のものに色をつけるのは難しく羽根への染色ができないか相談を持ちかけた。

連携の効果

特殊な前処理、転写捺染技術により鮮やかな色彩、多彩な模様、本物そっくりな羽根の絵柄など作成できるようになったこと。また、この染色法は水を使わないので環境にも負荷をかけない。また、愛知産業大学デザイン学科の学生と共同でデザイン、羽根を作成。多彩な色、柄で『矢羽根草子』3シリーズで『花暦』6種類『風暦』6種類『風林火山陰雷』6種類を作成しました。2008年度 岡崎ビジネス賞 地域活性化奨励賞『矢羽根の染色技術・デザイン開発』受賞しました。

連携して最も効果のあったこと

公設試だけの技術ではできなかったが染色方法が見つかったこと。

連携して最も困難だったこと

鳥の羽を使用しているが染料が付くように前処理、薬品等加工したが既存のものがなく公設試のみだけではできませんでした。自らが薬品会社に相談を持ちかけて薬品会社からいろいろ出してもらい可能にしました。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしてはノウハウ・化学的知識を教えてもらったことは非常に勉強になりました。デメリットとしては役所の仕事なので手続きを含め時間も限られているので時間も無く開発に深くは突き詰められなかった。

連携に際しての注意、アドバイスなど

色々な仕事、立場があるため一概にこうだとは言えないのでアドバイスなどはお答えできません。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

開発する為の資金的なこと。もう少し補助的な制度を確立して欲しいと思う。

会社概要

設 立 : 平成元年(創業 明治3年)

資 本 金 : 300万円

従業員数 : 20人

U R L : <http://www.koyamaya.com/>